

1. 4 大気部

令和4年度は、監視調査として大気汚染常時監視調査、排出基準監視調査、悪臭調査、騒音調査及び酸性雨調査を実施した。また、環境省の委託調査として、国設屋久島酸性雨測定所降水成分等調査及び化学物質環境実態調査を行った。

調査研究は、酸性雨の地域特性を明らかにするために、雨水及びガス・エアロゾル成分の採取、分析を行ったほか、「奄美地域におけるPM_{2.5}の発生源解析に関する調査研究」を行った。

1. 4. 1 大気汚染常時監視調査

大気汚染の状況を的確に把握するため、当県では、工業地域、都市地域や桜島周辺地域など監視の必要な地域に大気測定局を設置し、テレメータシステムにより常時監視を行っている。なお、一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）は17局（県設置10局、鹿児島市設置7局）、自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）は2局（県、鹿児島市とも各1局）設置しており、未設置地域は大気測定車による測定で補完している。大気測定局の位置及び令和4年度の大気測定車による測定地点並

びに測定項目を図1及び表1に示す。

また、地域ごとの特色に応じた効果的な微小粒子状物質（PM_{2.5}）対策の検討のため、質量濃度の測定に加え、成分分析を行った。

(1) 常時監視調査結果の概要

1) 二酸化硫黄 (SO₂)

二酸化硫黄を測定している測定局は7市町に16局設置されている。令和4年度は、桜島支所、赤水、有村及び黒神局で、長期的評価による環境基準を達成していなかった（表2）。

2) 窒素酸化物 (NO_x)

窒素酸化物を測定している測定局は7市町に11局設置されている。二酸化窒素及び一酸化窒素の測定結果を表2に示す。

二酸化窒素は昭和53年度以降、一般局及び自排局の全ての測定局で長期的評価による環境基準を達成しており、令和4年度も全ての測定局で環境基準を達成していた。

また、窒素酸化物に占める二酸化窒素の割合は、一般局が60.7～93.9%、自排局が54.0～63.2%であった。

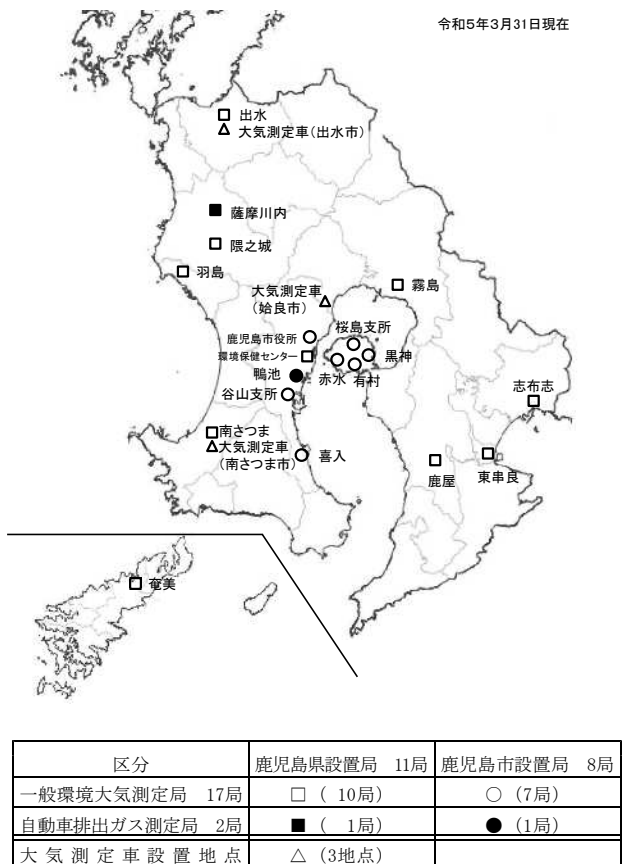


図1 大気測定局等位置

表1 大気測定局等一覧及び測定項目

No.	測定局	測定項目									
		二酸化硫黄	窒素酸化物	浮遊粒子状物質	光化学オキシダント	一酸化炭素	微小粒子状物質	炭化水素	風向・風速	温度・湿度	交通量
1	鹿児島市役所*	○	○	○	○		○		○		
2	環境保健センター	○		○	○				○		
3	鴨池 (自排局) *	○	○	○			○	○	○		
4	谷山支所*	○	○	○	○		○		○		
5	喜入*	○	○	○	○		○	○	○		
6	桜島支所*	○		○					○		
7	赤水*	○		○					○		
8	有村*	○		○					○		
9	黒神*	○		○					○		
10	鹿屋	○	○	○	○		○	○	○		
11	出水						○		○		
12	薩摩川内 (自排局)	○	○	○			○	○	○		○
13	隈之城	○	○	○	○		○	○	○		
14	霧島	○	○	○	○		○		○		
15	羽島	○	○	○	○		○	○	○		
16	南さつま				○		○		○		
17	志布志	○	○	○	○				○	○	
18	東串良	○	○	○	○				○	○	
19	奄美				○		○		○		
20	大気測定車(出水市)										
21	大気測定車(始良市)	○	○	○	○		○		○	○	
22	大気測定車(南さつま市)										

* 鹿児島市設置分

3) 浮遊粒子状物質 (SPM)

浮遊粒子状物質を測定している測定局は7市町に16局設置されている。令和4年度は、全ての測定局で、長期的評価による環境基準を達成していた (表3)。

4) 光化学オキシダント (Ox)

光化学オキシダントを測定している測定局は12局あり、9市町に設置されている。令和4年度は、全ての測定局で環境基準を達成していなかった (表4)。

5) 一酸化炭素 (CO)

一酸化炭素を測定している測定局は2局あり、2市に設置されている。令和4年度は、2局とも長期的評価による環境基準を達成していた (表5)。

6) 微小粒子状物質 (PM_{2.5})

微小粒子状物質を測定している測定局は12局あり、8市に設置されている。令和4年度は、全ての測定局で環境基準を達成していた (表6)。

7) 炭化水素 (HC)

炭化水素を測定している測定局は8局あり、6市町に設置されている。令和4年度は、喜入及び薩摩川内局で光化学オキシダント生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針を満足していなかった (表7)。

(2) 大気測定車による監視調査

令和4年度は、出水市 (北薩地域振興局出水支所敷地内)、始良市 (国道10号沿道) 及び南さつま市 (南さつま市役所敷地内) で監視調査を行った (表8)。出水市及び南さつま市において、光化学オキシダントが環境基準を達成していなかったが、その他の項目については、環境基準及び指針を満足していた。

(3) 微小粒子状物質 (PM_{2.5}) 成分分析

大気中微小粒子状物質 (PM_{2.5}) 成分測定マニュアルに基づき、霧島局において、微小粒子状物質の捕集及び成分分析を実施した。捕集期間を表9に、成分分析項目を表10に示す。

表2 二酸化硫黄、二酸化窒素及び一酸化窒素濃度測定結果

(単位: ppm)

測定局	項目	二酸化硫黄			二酸化窒素			一酸化窒素	
		年平均値	年間の日平均値の2%除外値	環境基準の長期的評価	年平均値	年間の日平均値の98%値	環境基準の長期的評価	年平均値	年間の日平均値の98%値
鹿児島市	鹿児島市役所	0.002	0.007	達成	0.008	0.017	達成	0.004	0.010
	環境保健センター	0.002	0.009	達成					
	谷山支所	0.003	0.018	達成	0.005	0.011	達成	0.003	0.017
	喜入	0.001	0.006	達成	0.002	0.004	達成	0.000	0.001
	桜島支所	0.002	0.013	非達成					
	赤水	0.012	0.114	非達成					
	有村	0.023	0.176	非達成					
黒神	0.004	0.040	非達成						
鹿屋市	鹿屋	0.003	0.016	達成	0.002	0.005	達成	0.001	0.002
薩摩川内市	隈之城	0.001	0.005	達成	0.003	0.006	達成	0.000	0.002
霧島市	霧島	0.002	0.012	達成	0.003	0.006	達成	0.001	0.005
いちき串木野市	羽島	0.001	0.009	達成	0.002	0.004	達成	0.000	0.001
志布志市	志布志	0.001	0.005	達成	0.005	0.008	達成	0.001	0.003
東串良町	東串良	0.001	0.006	達成	0.002	0.003	達成	0.000	0.002
鹿児島市	鴨池 (自排局)	0.002	0.012	達成	0.010	0.018	達成	0.006	0.010
薩摩川内市	薩摩川内 (自排局)	0.001	0.004	達成	0.006	0.011	達成	0.005	0.014

(注) 環境基準の評価方法

二酸化硫黄: 1日平均値の年間2%除外値が0.04ppm以下であること。ただし、1日平均値が0.04ppmを超える日が2日以上連続したときは、上記に関係なく非達成とする。

二酸化窒素: 1日平均値の年間98%値が0.06ppm以下であること。

表3 浮遊粒子状物質濃度測定結果

(単位：mg/m³)

測定局	項目	年平均値	年間の日平均値の2%除外値	環境基準の長期的評価
	環境保健センター	0.017	0.038	達成
	谷山支所	0.016	0.031	達成
	喜入	0.017	0.037	達成
	桜島支所	0.015	0.034	達成
	赤水	0.013	0.030	達成
	有村	0.016	0.041	達成
	黒神	0.015	0.036	達成
鹿屋市	鹿屋	0.016	0.039	達成
薩摩川内市	隈之城	0.013	0.028	達成
霧島市	霧島	0.014	0.029	達成
いちき串木野市	羽島	0.017	0.040	達成
志布志市	志布志	0.018	0.040	達成
東串良町	東串良	0.016	0.034	達成
鹿児島市	鴨池(自排局)	0.015	0.032	達成
薩摩川内市	薩摩川内(自排局)	0.014	0.032	達成

(注) 環境基準の評価方法

1日平均値の年間2%除外値が0.10mg/m³以下であること。ただし、1日平均値が0.10mg/m³を超える日が2日以上連続した場合には上記に関係なく非達成とする。

表4 光化学オキシダント濃度測定結果

(単位：ppm)

測定局	項目	昼間の1時間値の年平均値	昼間の1時間値の最高値	昼間の1時間値の0.06ppm超過時間数	環境基準の評価
	環境保健センター	0.031	0.073	63	非達成
	谷山支所	0.034	0.079	125	非達成
	喜入	0.032	0.075	75	非達成
鹿屋市	鹿屋	0.033	0.079	204	非達成
薩摩川内市	隈之城	0.029	0.080	135	非達成
霧島市	霧島	0.030	0.078	100	非達成
いちき串木野市	羽島	0.036	0.087	272	非達成
志布志市	志布志	0.034	0.075	159	非達成
東串良町	東串良	0.033	0.077	158	非達成
南さつま市	南さつま	0.033	0.085	215	非達成
奄美市	奄美	0.031	0.082	53	非達成

(注) 環境基準の評価方法

昼間(午前5～午後8時)の1時間値が0.06ppm以下であること。

表5 一酸化炭素濃度測定結果

(単位：ppm)

測定局	項目	年平均値	年間の日平均値の2%除外値	環境基準の長期的評価
薩摩川内市	薩摩川内(自排局)	0.3	0.8	達成

(注) 環境基準の評価方法

1日平均値の年間2%除外値が10ppm以下であること。ただし、1日平均値が10ppmを超える日が2日以上連続した場合には上記に関係なく非達成とする。

表6 微小粒子状物質濃度測定結果

(単位：μg/m³)

測定局	項目	年平均値	年間の日平均値の98パーセンタイル値	日平均値が35μg/m ³ を超えた日数	環境基準の評価
	谷山支所	10.5	22.8	1	達成
	喜入	9.4	19.4	0	達成
鹿屋市	鹿屋	14.5	31.0	2	達成
出水市	出水	10.1	21.4	1	達成
薩摩川内市	隈之城	10.6	21.9	1	達成
霧島市	霧島	11.2	22.9	0	達成
いちき串木野市	羽島	9.8	21.7	1	達成
南さつま市	南さつま	9.7	19.8	1	達成
奄美市	奄美	7.0	16.7	0	達成
鹿児島市	鴨池(自排局)	10.2	24.3	1	達成
薩摩川内市	薩摩川内(自排局)	11.0	21.2	2	達成

(注) 環境基準の評価方法

1年平均値が15μg/m³以下であり、かつ、1日平均値の年間98パーセンタイル値が35μg/m³以下であること。

表7 炭化水素(非メタン及びメタン)濃度測定結果

(単位：ppmC)

測定局	項目	非メタン炭化水素		メタン 年平均値
		6～9時における年平均値	6～9時の3時間平均値が0.31ppmCを超えた日数	
鹿児島市	喜入	0.06	3	1.97
鹿屋市	鹿屋	0.08	0	2.08
薩摩川内市	隈之城	0.06	0	2.02
いちき串木野市	羽島	0.04	0	1.97
志布志市	志布志	0.06	0	2.02
東串良町	東串良	0.06	0	2.08
鹿児島市	鴨池(自排局)	0.10	0	1.98
薩摩川内市	薩摩川内(自排局)	0.15	11	2.02

(注) 光化学オキシダント生成防止の指針

午前6時～9時の3時間平均値が0.31ppmC以下であること。

表8 大気測定車による光化学オキシダント濃度測定結果 (単位: ppm)

測定場所	測定期間	昼間の1時間値の平均値	昼間の1時間値の最高値
出水市 〔北薩地域振興局 出水支所〕	令 4. 4. 23～ 5. 23	0.039	0.076
	令 4. 9. 16～10. 16	0.031	0.062
始良市 (国道10号沿道)	令 4. 7. 16～ 8. 15	0.017	0.053
	令 4. 11. 5～12. 5	0.027	0.055
南さつま市 (南さつま市役所)	令 5. 2. 4～ 3. 7	0.038	0.079

表9 微小粒子状物質捕集期間

捕集地点	季節	捕集期間
霧島局	春	令 4. 5. 12～ 5. 25
	夏	令 4. 7. 30～ 8. 12
	秋	令 4. 10. 20～11. 2
	冬	令 5. 1. 19～ 2. 1

表10 微小粒子状物質成分分析項目

	分析項目
イオン成分	F ⁻ , Cl ⁻ , NO ₃ ⁻ , SO ₄ ²⁻ , Na ⁺ , NH ₄ ⁺ , K ⁺ , Mg ²⁺ , Ca ²⁺
無機元素	Be, Na, Mg, Al, K, Ca, Sc, Ti, V, Cr, Mn, Fe, Co, Ni, Cu, Zn, As, Se, Rb, Y, Mo, Cd, Sb, Cs, Ba, La, Ce, Pr, Nd, Sm, Eu, Gd, Tb, Dy, Ho, Er, Tm, Yb, Lu, Hf, Ta, W, Pb, Th
炭素成分	有機炭素 (OC), 元素状炭素 (EC)

1. 4. 2 排出基準監視調査

大気汚染防止法及び県公害防止条例に基づいて、工場事業場等の燃焼ガス中のばいじん、窒素酸化物等の測定を7施設で行った。

1. 4. 3 悪臭調査

ENEOS喜入基地株式会社周辺(4地点)において、環境保全協定に基づき硫黄系4物質の濃度測定を年2回行った。いずれの物質においても協定に定められた値以下であった。

1. 4. 4 航空機騒音調査

環境基準監視調査として鹿児島空港及び鹿屋飛行場の周辺地域において、それぞれ7地点で航空機騒音調査を行った。

令和4年度の鹿児島空港の調査結果を表11に、鹿屋飛行場の調査結果を表12に示す。全ての地点で環境基準を達成していた。

表11 航空機騒音測定結果(鹿児島空港) (単位: デシベル)

指定区分	基準値	地点	測定年月日	測定結果	環境基準の評価
I 類型	57	A	令 4. 4. 21～ 4. 27	38	達成
		B	令 4. 8. 19～ 8. 25	42	達成
II 類型	62	C	令 4. 4. 21～ 4. 27	53	達成
		D	令 4. 7. 8～ 7. 14	54	達成
		E	令 4. 12. 2～12. 8	51	達成
		F	令 4. 12. 2～12. 8	59	達成
		G	令 5. 2. 17～ 2. 23	59	達成

表12 航空機騒音測定結果(鹿屋飛行場) (単位: デシベル)

指定区分	基準値	地点	測定年月日	測定結果	環境基準の評価
I 類型	57	A	令 4. 5. 13～ 5. 26	40	達成
		B	令 4. 5. 13～ 5. 26	40	達成
		C	令 4. 10. 7～10. 20	36	達成
II 類型	62	D	令 4. 9. 8～ 9. 15 令 4. 9. 23～ 9. 28	47	達成
		E	令 4. 9. 8～ 9. 15 令 4. 9. 23～ 9. 28	45	達成
		F	令 4. 10. 7～10. 20	54	達成
		G	令 5. 1. 13～ 1. 26	47	達成

1. 4. 5 酸性雨調査

酸性雨調査については、環境省の委託業務として、越境大気汚染や酸性沈着の影響の早期把握や将来の影響を予測するために、国設屋久島酸性雨測定所に降雨自動採取装置を設置し、1週間ごとに採取した降水のpH、電気伝導率(EC)の測定及びイオン成分(SO₄²⁻, NO₃⁻, Cl⁻, Na⁺, K⁺, Ca²⁺, Mg²⁺及びNH₄⁺)の分析を行った(2.2.2(1)参照)。

県独自の調査としては、当センター敷地内に降雨自動測定採取装置を設置し、1週間ごとに採取した降水のpH、ECの測定及びイオン成分の分析を行った(2.2.3(2)参照)。

1. 4. 6 精度管理

(1) 国設酸性雨測定所分析精度管理調査

環境省が実施する国設酸性雨測定所分析精度管理調査に参加し、模擬酸性雨試料(高濃度及び低濃度)について、pH、電気伝導率、イオン成分(SO₄²⁻, NO₃⁻, Cl⁻, Na⁺, K⁺, Ca²⁺, Mg²⁺及びNH₄⁺)の分析を行った。